

## 白

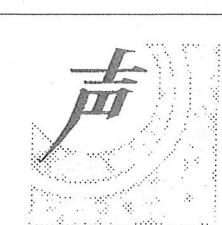
虎隊で知られる會津。會津藩がふるさとを守るために16～17歳の武家の男子で編成した精銳部隊。だが、戦線は芳しくなく自刃へと追いつめられてゆく悲劇。舞台となつた飯盛山はいまも線香が絶えない。その飯盛山のほど近くに觀光名所の「武家屋敷」がある。当時の武家を何棟か移設、一堂に集めて屋敷風に仕立てたもの。じつくり見て回ると2時間ほどかかるが、往時の武家の暮らしぶりや子供の躰にもなかなか厳しかった様子が伝わってくる。

突然、見学中の小学生のグループから声がかかってきた。「すみません。これ食べてみてください」。両手に収まるほどの大きさの紙袋。「庄内米『はえぬき』」とある。試食米だ。手作りのパンフレットも付いていて、一つは「すばらしい酒田スポット」。もうひとつは「庄内米のひみつ」。早速ひも

とくと、最初に「山居倉庫（さんきようそうこ）」とある。武家屋敷のコメ蔵のよう横に何棟も並んでいて、1893年というから明治時代後期にできた倉庫群だろう。

現在も農業倉庫として活躍中だそうだ。コメの品質保持のため、土壁をベースに屋根に空間なつた地道な取り組みが大きな成果となつて実を結んで行くことになるのだろう。そして、将来を担う子供たちが郷土を愛し、郷土に誇りを持つことが

## 庄内米を担う若い使者



をとるなど風通しをよくする工夫が施されているという。

山形県の日本海側に位置する

「美しいニッポン」の再構築に繋がつて行く。

もう一つのパンフレット「庄内米のひみつ」によれば、庄内

米には「はえぬき」「つや姫」

「雪若丸」「コシヒカリ」「ササニシキ」「ひとめぼれ」「どまんなか」などのブランドがあつ

て、これらを原料にカステラ、手として一役買おうと、隣県の

福島まで“出張”して役割を果たしていたわけだ。政府は挙げて「ふるさと創生」に取り組んでいるが、こうした地域一体となつた地道な取り組みが大きな成果となるのである。もっとも、前回昭和39年の

東京オリンピック当時ごろでもコメは恒常に不足で、政府管理の統制品であつた。それがその後、余剰になつて昨今ではス

ーパーの安売りの目玉商品になっている。往時の人々が聞いたらビックリして腰を抜かすほどの“大事件”だろう。

物は5%不足すると価格が高騰し、5%余剰になると暴落するという。これを回避する知恵や手法を持たないと地域も産業も行き詰まる。會津で出会つた酒田・浜田小の子供たち。ふるさとに對するこの子たちの熱い思いと意氣込みが5年後、10年後どのような形で花開いているか。この目でぜひ、確かめてみたいと思つた次第である。